

健全育成シリーズ (80)

子どもの 夢や希望を育もう

最近の子どもには「夢や希望がない」と言われていますが、本当にそうでしょうか。本来子どもといふのは、好奇心が強く、高い理想を持つて生きているものだと思います。

ある調査で、四月当初に、中学生に「将来の職業の希望」について聞いたところ、男子ではスポーツ選手・技術者・政治家などが上位に挙げられました。また、女子の方では保母・教師・看護婦が集まりました。

このように、「一年生は夢や希望を持っている」という傾向は、どこの学校でもみられます。しかし、その一方で、学年が上がるにしたがつてだんだん現実的になり、夢や希望がしょんびりいく、という傾向があるのもまた事実のようです。そして、こういう傾向は、昔よりも最近のほうが多い傾向になっています。

これは、とても憂慮すべきことです。将来への目標を持たない子どもたちの生活は、どうしても往々にして無気力で生氣のないものとなるからです。そればかりか、後先を考えないその場主義的な快樂を求めての行動に走りやすいという危険性をも含んでいます。最近の青少年の問題行動や非行の増加も、その一つの現れと見ること

ができます。

子どもたちが大きな夢や希望を持続けることができなくなつてしまった大きな要因の一つに、大人(親)の子どもへの見方や接し方があると思います。子どもたちの夢や希望を育てるために、大人はどうのようなことに留意すればよいのでしょうか。次に二、三挙げてみたいと思います。

第一に、学習成績だけで自分の子どもを判断しないことが大切です。とかく、学習成績の良い子は「良い子」、成績の悪い子は「悪い子」と判断されてしまふ傾向にあります。しかし、過去の先人たちをみても、決してそんなことはありません。偉大な発明家エジソンも、アメリカの初代大統領のワシントンも、学校の成績という点では、決して優れている方ではありませんでした。成績という一部だけでは、一人の子どもの全体をみるのではなく、多角的・総合的に自分の子どもの良い面をみていくことが何より大切です。

次に、日ごろから親子で会話を増やし、親の願いや期待する機会を増やす、親の願いや期待です。



大月保健所 伝言板

大月市大月町花咲 1608-3
☎ (22) 7824

ご存知ですか?

臓器移植意思表示カード

臓器の移植に関する法律が、昨年十月十六日に施行されました。

この法律により「脳死」判定を受けたものになるよう激励し、援助し続けていくことが大切でしょう。

「一度しかない人生をどんなふうにやつていきたいのか。今時期から体力を作り、得意なものを伸ばし、頑張ってみろ」というような言葉かけが有効だと思います。間違つても「今は勉強さえしていればいい」というのではなく、希望実現のために勉強も怠つてはならない、ということを教え、励まし欲しいと思います。

人間にとつて、将来への夢や希望や目標は、今を前向きに生きようとする大きなエネルギーの源になります。子どもが将来に夢や希望を抱けなくなっている昨今、大人が自らの責任やあり方について、改めて問い合わせみたいものです。

寄付(敬称略)

社会福祉のために

青藍幼稚園PTA会長 渡辺益美

金 四一、五七〇円

都留市ゲートボール協会会員一同

金 一〇八、五〇〇円

社団法人 大月青色申告会
都留支部長 佐藤秀男

金 六〇、〇〇〇円

族がそれを拒まないときまたは家族がないときは、次のような病氣です。
☆臓器移植意思表示カードは、各市町村役場、保健所の窓口にあります。

難病相談について

いわゆる「難病」といわれているのは、次のような病氣です。

・原因不明

・治療法が確立されていない

・後遺症を残すおそれがある

・難病の多くは慢性に経過するため、単に医療費の経済的な問題だけではなく、本人・家族の心身の負担は計りしれないものがあります。

一人で悩まずにお気軽にご相談ください。

また、医療費の負担の軽減を図るために、細かな規定がされています。

・本人が臓器提供の意思を書面により表示(カードなど)している場合で、遺族が拒まないときまたは遺族がないとき

☆臓器の摘出に係る脳死の判定は、より表示(カードなど)している場合で、遺族が拒まないときまたは遺族がないとき

・本人が臓器提供の意思を書面により表示(カードなど)している場合で、遺族が拒まないときまたは遺族がないとき

・臓器の摘出に係る脳死の判定は、より表示(カードなど)している場合で、遺族が拒まないときまたは遺族がないとき

・本人が臓器提供の意思を書面により表示(カードなど)している場合で、遺族が拒まないときまたは遺族がないとき

・本人が臓器提供の意思を書面により表示(カードなど)している場合で、遺族が拒まないときまたは遺族がないとき